

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略検証委員会〔第7回委員会〕

日時：令和6年8月28日（水）午前10時から

場所：入善町役場 大会議室

【委員からの主な意見】

委員名	内 容
<p>細田委員 〔アイシン・メタルテック㈱〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種K P I（重要業績評価指標）の基準値と目標値について、将来どこを目指して、どういう理由で数値を設定しているのか、委員も含め役場職員一人ひとりが認識を共有しなければならない。 ・企業は人手が不足しており、外国人を雇用しているが、その住まい（アパート）が入善町に不足している。人口減少を考えると、町外ではなく是非入善町で住んでいただきたいことから、空き家の活用が有効と考える。また、空き家バンクの助成対象を個人だけではなく、法人も対象に加えてはどうか。
<p>大沼委員 〔みな穂農業協同組合〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少とともに農業従事者の人口も減少している。米の出荷農家は令和6年度で579戸であり、2年間で135戸減少している。その分、担い手へ農地が動いており、指標値の農地流動化率が上昇している。 ・入善町の基幹産業は農業であるが、特産品の新規生産者数が伸び悩んでいることから、県・町・関係機関が連携を取りながら、色々な施策を推進していただきたい。 ・みな穂農協では、堆肥のペレット化を検討しているが、堆肥の量が不足しており、下水道処理場の汚泥も活用したペレット化を検討できないか。公園の草花や家庭菜園などの肥料として利用することで、循環型社会の構築に繋がる取り組みとなる。 ・入善町にイベントなどで訪れた際に、宿泊する施設が少ないとよく耳にする。空き家を改築、修復して宿泊施設として活用してはどうか。
<p>飯田委員 〔入善漁業協同組合〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標人口を2万人と設定しているが、各種施策のK P Iを全て達成したとしても、おそらく2万人は維持できない。色々な施策の中でも、特に重要な施策が当然あると思う。例えば、子育て環境の施策に特化するなど、他より目立つことで他自治体から人が来ていただくような仕掛けが必要である。

委員名	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家問題について、若い世代は新しく家を建てたい、アパートに住みたいと思う方が多く、空き家は今後も急速に増加し、この問題は今よりもさらにひどい状況になる。入善町では安く家が手に入るなどを特徴にして、強みを打ち出していけばどうか。
<p>本多委員 〔入善町商工会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業製品等出荷額については、当時の為替相場と最近の為替相場が違うことから、自ずとこういう結果となる。商業年間商品販売額は、税率が上がったことから自然的に上がっている。しかし、中小規模事業者の中では、そういったマクロ環境が変化しても価格を転化できていないという現状もある。 ・事業継承については、商業・工業など全産業において承継が非常に難しくなっている。そんな中、創業の方と承継の方のマッチングを行う相談会を開催しており、コロナの5類以降、今年に入って相談件数も多く、既に開業したところもある。 ・起業、創業に興味関心をもっている学生も多数いるため、起業家教育というものが盛んになっていくと、大学を卒業して就職し、そして起業という選択肢も増えていくのではないか。
<p>竹内委員 〔入善町小中学校長会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への対応について、近年、学校の中に不登校の児童生徒が自習などに取り組めるよう空き教室を利用した「サポートルーム」を設置している自治体もあり、今後、そのような環境づくりも考えていかなければならない。 ・入善町では国際地域間交流事業として、宮城県登米市、広島県広島市、アメリカフォレストグローブ市、カンボジアなどに小中学生を派遣しているが、子どもたちにとって、町外で入善町の良さを知るとてもいい機会であり、今後とも継続していただきたい。 ・入善町には、素晴らしい子育て支援施策がたくさんあるが、案外、町民の方は知らないのではないか。色々なメディアを活用して、もっとPRしてはどうか。
<p>森下委員 〔入善町金融協会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町政の財源確保の手段として、企業誘致が有効なものである。入善町は洋上風力発電、海洋深層水を活用したパックご飯の工場など脱炭素の取り組みも意識した誘致のほか、サーモンの陸上養殖の進出も予定されており、他の自治体

委員名	内 容
	<p>と比べても注目度が高い町である。こういった強みを今後の企業誘致に活かしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税の去年の実績が0となっている。金融機関は顧客とのネットワークを活かして、企業との橋渡しができるため、寄付企業の開拓に協力していきたい。
<p>村田委員 〔入善女性団体連絡会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、(株)ウーケのパックご飯の工場拡張についての新聞記事を拝見した。記事には、工場拡張を全国で考えたが、やはり入善町の水のクオリティーが決め手となり、この場所で拡張することを決定したと記載されていた。入善町の名水は世界に誇れるものであり、この豊かな資源を利用して基本目標の「しごとづくり」や「人の流れづくり」の向上に繋げてほしい。 ・能登半島地震を受けて、女性団体や地域住民を中心とした防災研修会を実施しており、防災意識の醸成を図っている。まずは、自分の身は自分で守る、家族も自分たち家族で守るという自助や、隣近所での共助が大切であり、その上で行政にお願いする公助があるのではないかと。また、女性防災士の資格を取ろうとする方も何人かいるため、町からの取得補助も含めて、女性防災士の増員を検討していただきたい。
<p>中村委員 〔入善町商工会青年部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会青年部では、入善町を知ってもらうための活動や事業を多く実施しており、最近、SNSを利用して情報を発信している。町もSNSなどを活用しながら情報発信の強化に努めてはどうか。 ・町外、県外から来られた方が、空き家を活用して起業、創業する際、その方たちにはコミュニティがないことから、空き家の紹介だけにとどまらず、例えば大工、電気屋、各種組合なども紹介する仕組みづくりが大切ではないかと。
<p>辰尻委員 〔入善町PTA連絡協議会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町では、今年度より高校の授業料に対して支援しているが、例えば交通費への支援や、近年の部活動の地域移行が進む中、クラブ活動に対しても支援してはどうか。
<p>高原委員 〔(株)北日本新聞社〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭、町長が「消滅可能性自治体」に加えられたということで、緊張感を持って話をされた。一番の課題として捉えている若い世代の結婚・出産・子育てについての問題は、他の自治体と大きく差をつけるのは非常に難しいテーマであ

委員名	内 容
	<p>る。他の自治体も一生懸命取り組んではいるが、なかなか成果として現れづらい。国全体の大きな課題であり、入善町は現時点で十分制度や支援体制は整っている。こうした中、総合計画の見直しを図る上で、入善町ならではの強みを内外にどうアピールしていくかが大切である。また、基幹産業の農業をはじめ、豊かなポテンシャルはたくさんあるため、この強みに付随して町民の暮らしが豊かになる、こういった循環をつくっていくような施策が重要ではないか。</p>
<p>村田委員 〔入善町PTA連絡協議会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入善町の人口は減少しているが、地区により差があり、戸数が増えている地区もある。私が住んでいる地区に県外から移住してこられたが、その理由として、災害が少ないということが利点のひとつであったと聞いており、災害が少ないというのは町の特徴である。さらに、今年の能登半島地震においても入善町は震度4であり、災害に強い土地であることも町のメリットである。また、昨年、上原地区でコンビニ強盗未遂事件があった。防犯カメラは犯罪が発生した際に非常に効果を発揮するほか、犯罪の抑止効果にもなる。入善町は防犯カメラの数が少なく、増やしていくべきではないか。このように、安全・安心を町の強みとして活かしながら入善町に人を呼び込んではどうか。 ・伝統文化については、高齢化が進んでいるという点と、子どもたちが少ないという点において、地域の祭りなどが継承していけないというのが現状である。新しく地域に入ってきた方が、祭りを機会に地域に溶け込むことができるなど、祭りは地域にとって非常に大きな役割を担っていることから、継承に向けて町の支援の拡充を検討してはどうか。
<p>浦田委員 〔入善町社会福祉協議会〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会では、ひとり親の生活困窮世帯に対して、食料支援を行っており、全体の約24～25%の世帯が支援に来られている。先日、アンケートや聞き取りをしたところ、この支援に対して、すごく喜んでいただき、入善町に住んでいて良かったというお母さんもおられた。こういったことから、入善町が選択される自治体になるためには、ひとり親世帯への手厚い支援も大切なことである。 ・介護保険事業について、近年の最低賃金の上昇や物価高騰のほか、介護保険収入や障害給付費が急激に上がらない中

委員名	内 容
	<p>において、介護事業所の収支の状況はどうなっているのか。全国的な流れとして、介護事業所の突然の廃業や休止がみられる中、どういう状況で介護保険事業を提供しているのか、収支状況を把握してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none">• 60歳から69歳の就業率の目標値が60%となっているが、人口減少社会に対応するためには、もう少し高めに設定して、見直しを図る必要があるのではないか。ただし、高齢の方で働く人が多くなると、地域コミュニティの中心となる担い手が不足するという課題もある。